

日本版ISAの道 その53

NISA が範としている英国 ISA の最新統計
～英国株ファンドが断トツ人気だが、
不動産なども人気～

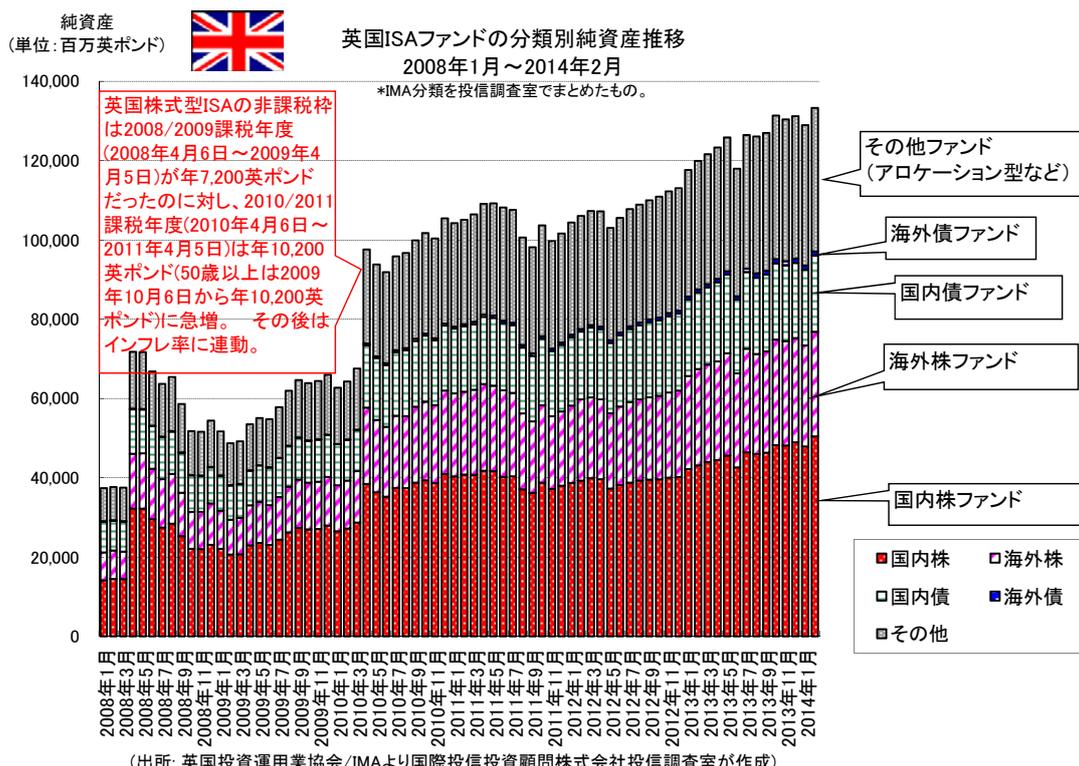
※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA が範としている英国 ISA の最新統計～大分類の純資産推移～

2014年4月6日から英国ISA/Individual Savings Account(個人貯蓄口座)で新しい課税年度が始まった。英国のISAは、毎年、年度終わりと年度始まりに膨らむ傾向がある。また2014年7月からは非課税投資枠が大きく増える(*)。

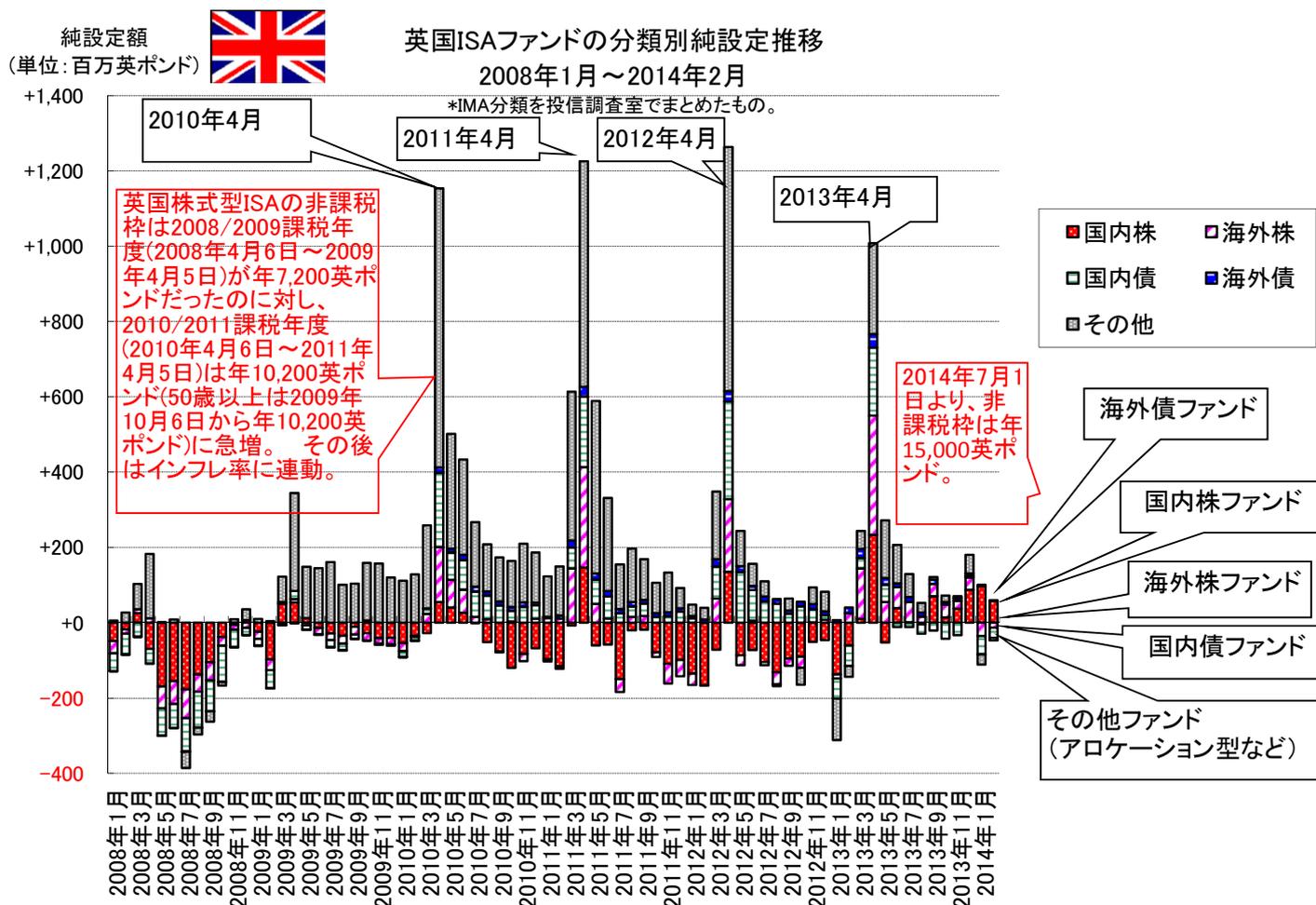
*2014/2015 課税年度のISA非課税投資枠・・・2014年4月6日から11,880英ポンド(約200万円)、預金型は年5,940英ポンド(約100万円)と、インフレ率に連動して引き上げ。前年度は11,520英ポンド(約178万円)、預金型5,760英ポンド(約89万円)。さらに、今年2014年3月19日に英国政府から発表されたNew ISA/NISAにおいて、7月1日より、年15,000英ポンド(約253万円)と前年度比3割増額になる。この注目される2014年7月の統計は、8月下旬に公表予定である。(IMAおよび過去の英ISA統計は2月17日付日本版ISAの道 その45、英ISA非課税投資枠は3月31日付日本版ISAの道 その50参照～URLは後述[参考ホームページ])。

関心の高まる新年度の統計だが、英国投資運用業協会/IMAより発表されるのは5月末からであり、2014年3月末に発表されたばかりの最新統計は2014年2月までのものだ。ただ、今後を占う為には重要なものなので、今回はそれを概観することとする。まず、英国ISAファンドの純資産を大分類で見たのが下記グラフだ。2014年2月末の純資産の大きい順に、国内株ファンド、その他ファンド、海外株ファンド、国内債ファンドとなっており、純資産全体は総じて拡大傾向となっている。尚、2010年4月に段差を見せて急増しているのは非課税枠の引き上げによるところが大きい。英国株式型ISAの非課税枠は2008/2009課税年度(2008年4月6日～2009年4月5日)が年7,200英ポンドだったのに対し、2010/2011課税年度(2010年4月6日～2011年4月5日)は年10,200英ポンド(50歳以上は2009年10月6日から年10,200英ポンド)に急増している(*その後はインフレ率に連動)。



NISA が範としている英国 ISA の最新統計～大分類の純設定推移～

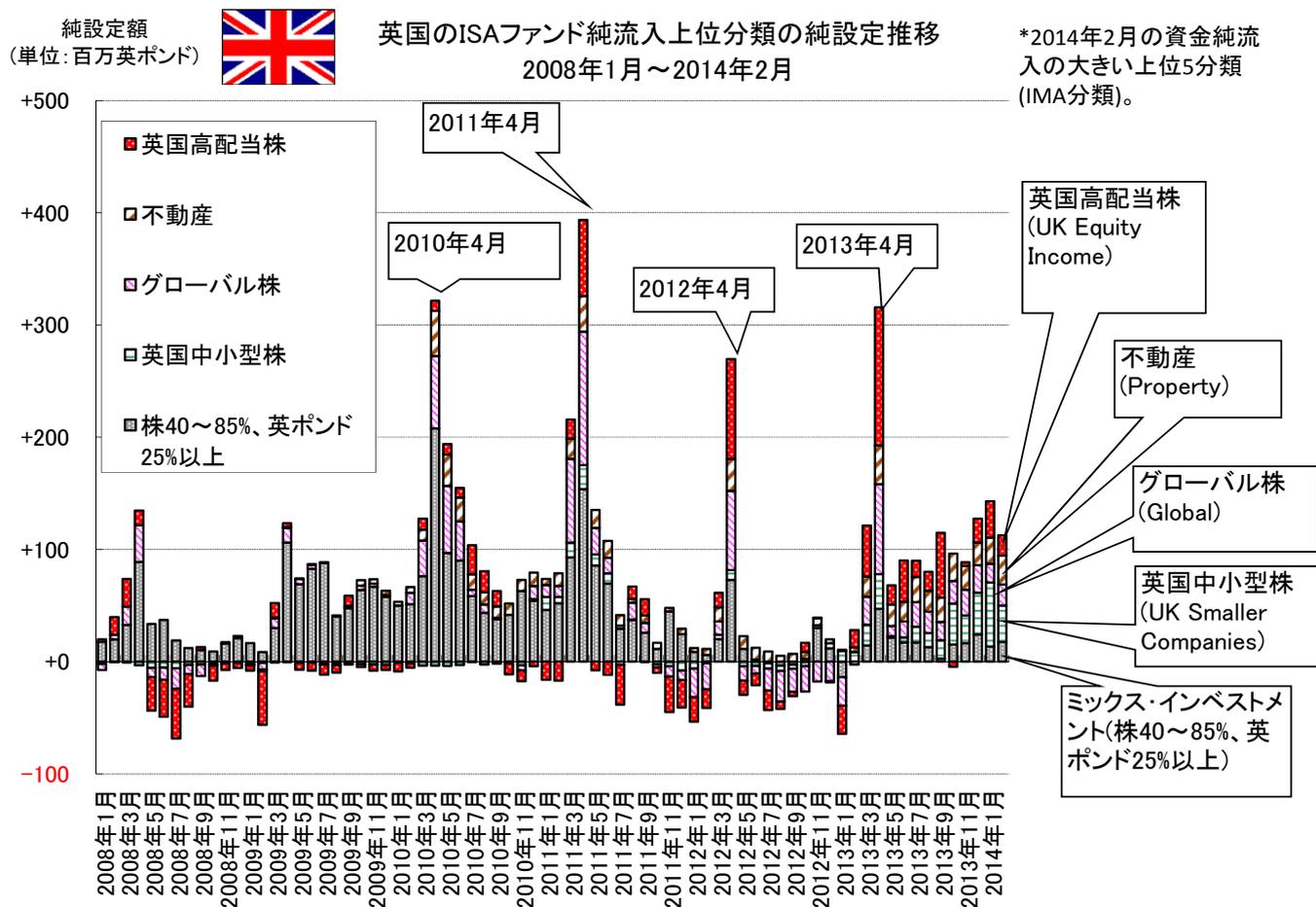
英国 ISA ファンドの純設定を大分類で見たのが下記グラフである。2014年2月の純設定の大きい順に、国内株ファンド、海外債ファンド、その他ファンド(*純流出)、海外株ファンド(*純流出)、国内債ファンド(*純流出)と前月1月と同様、国内(英国)株が人気である。英国 ISA ファンドの国内株(不動産含む)ファンドは毎年4月に純流入で、それ以外の月は純流出となる傾向が多かったが(毎年4月5日の課税年度終了と4月6日の課税年度開始の関係)、2013年9月から6カ月間、純流入が続いており、最近はそれが薄れている様である。



(出所: 英国投資運用業協会/IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

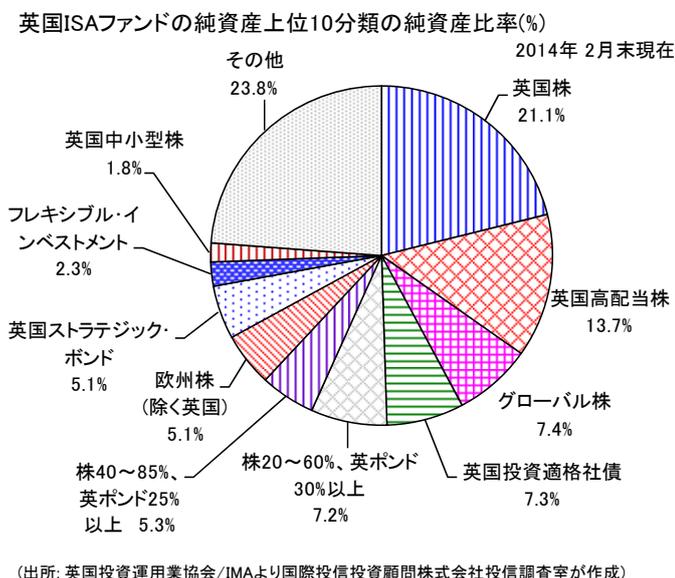
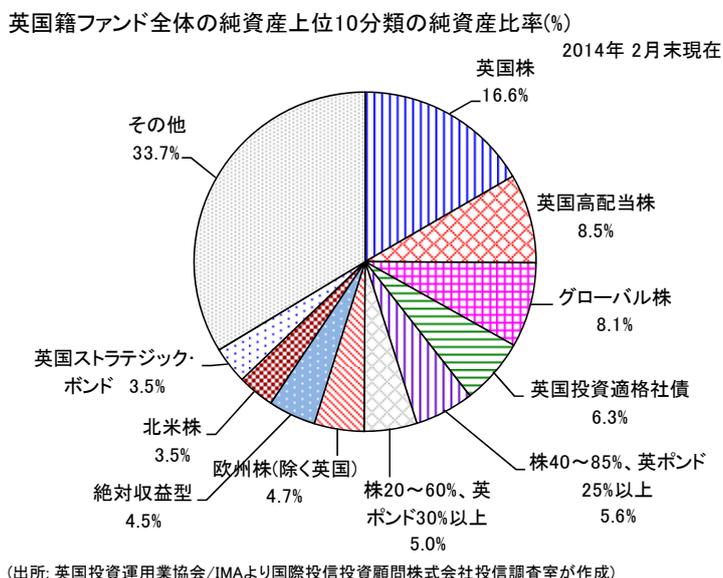
NISA が範としている英国 ISA の最新統計～詳細分類の純設定推移～

上記英国 ISA ファンドの純設定について詳細分類で見ると、2014年2月の純設定の大きい順に、1位「英国中小型株」、2位は「不動産」、3位は「グローバル株」、4位は「英国高配当株」、5位は「株 40～85%、英ポンド 25%以上」となっている。この上位5分類についての純設定推移を見たのが次頁グラフであるが、2011年頃まで堅調な純設定であった「その他ファンド」に含まれている「株 40～85%、英ポンド 25%以上」がどんどん細くなっていき、一方、「国内株」に含まれている「英国高配当株」や「英国中小型株」が2013年以降に増えてきている事がわかる。この様に英国 ISA ファンドも傾向が大きく変わる。

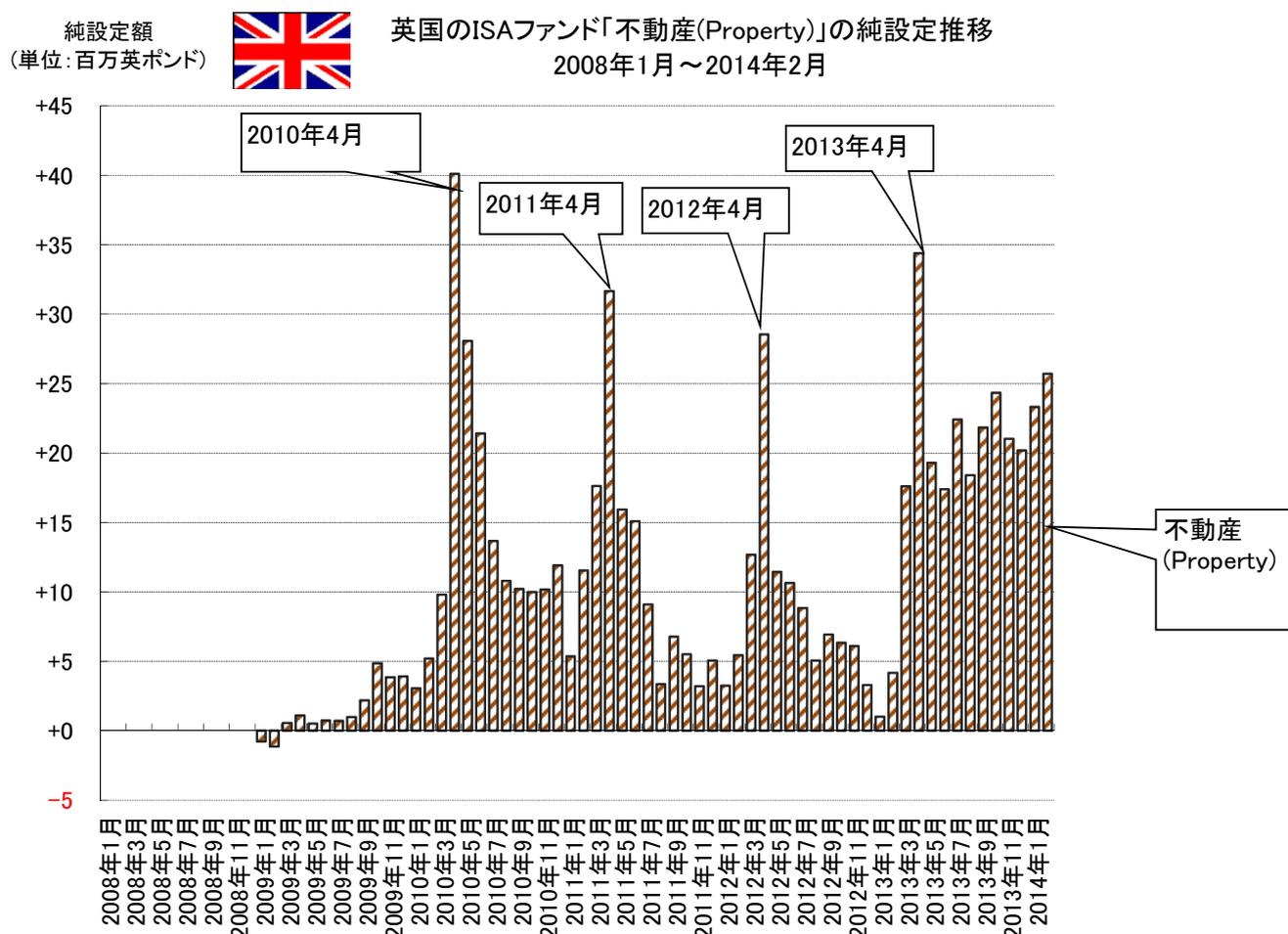


NISA が範としている英国 ISA の最新統計～英国籍全体との比較～

以上の英国 ISA ファンドを英国籍ファンド全体と比較しながら見る。2014年2月末の残高構成比で、英国籍ファンド全体に比べて、英国 ISA ファンドの比率が高い分類は、英国株、英国高配当株、英国投資適格社債、英国ストラテジックボンド、株 20～60%、英ポンド 30%以上、欧州株である。英国 ISA ファンドの方が国内株志向の強いことがわかる。



英国籍ファンドや英国 ISA ファンドの残高上位の分類と、英国 ISA ファンドの純流入上位の分類を比べてみると、「英国高配当株」や「英国中小型株」などは残高も純設定も大きい（「英国中小型株」は純設定 1 位、残高で 10 位）。そのなか「不動産」は、残高こそ小さいのだが、純流入で 2 位である（残高は英国 ISA ファンドで 16 位/IMA 全 36 分類中。ISA ファンド全体に占める比率 1.2%）。この「不動産」について時系列で純設定をみてみると、2009 年 3 月から 5 年連続で資金純流入であり、特に 2013 年からは堅調に増えている。英国投資信託協会が 2014 年 2 月の英国籍ファンドの動向について「英国株ファンド人気はしばらく続くだろうが、それ以外では、上位 5 分類をみると、不動産、債券、絶対収益型ファンドに投資されている。」（和訳は投信調査室、URL は後述[参考ホームページ]）と話したが、英国 ISA ファンドでも国内株に隠れて不動産が人気のようなのである。



(出所: 英国投資運用業協会/IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

[参考ホームページ]

英国投資運用業協会(Investment Management Association/IMA)…「 <http://www.investmentfunds.org.uk/>」、2014 年 2 月 17 日付日本版 ISA の道 その 45「NISA が範としている英国 ISA ではここ 3 年、内外の高配当株志向が高まっている。その理由は何か?」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140217.pdf>」、2014 年 3 月 31 日付日本版 ISA の道 その 50「英国で新しい ISA(NISA)が始まる! 日本の NISA のモデルとなる株式型 ISA は、非課税枠 3 割増で残高 3000 億英ポンド (約 50 兆円)に近づく可能性も。」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140331.pdf>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。